

No.	研究してほしいテーマ	現状と課題	大学が行う研究から期待される効果等	要望・提案元	掲載日時	掲載期限	備考
001	瑞梅寺（中山間地域）の地の利を活かした再生可能エネルギーの研究並びにその益金を地元振興対策の研究と実践に向けて	瑞梅寺行政区には、瑞梅寺ダムがあり、この水力を活かして小水力発電を設置（平成28年11月竣工）している。瑞梅寺地区の地の利を活かした売電益の活用方法として、再生可能エネルギー整備、その電力の供給および非常用の蓄電池の設置研究を期待し、地域社会創りに繋がってほしい。	環境に詳しい研究者から、より具体的な手法を研究頂き、提示してほしい。	市民個人	平成31年4月3日	令和4年3月31日	
002	在宅復帰を目指すリハビリ施設として施設内活動プログラムの開発	施設内での介護及びリハビリテーションを提供し、利用者の自立と在宅復帰に向けたプログラム内容の質の向上を図るため、介護及びリハビリの効果科学的、客観的に把握ができ、利用者に応じたプログラムを提供したい。	施設療養に係わるスタッフ全体で取り組む人員配置体制の整備、利用者に応じた施設生活プログラムの開発、目的達成のためのスタッフへの意識改革の支援を期待している。	市民個人	平成31年4月3日	令和4年3月31日	
003	福岡市内への移動に係る所要時間の短縮について	福岡市に隣接する糸島市は、福岡市内から糸島市と同じ距離（25km）にあたる二日市市や古賀と比較し、移動に2倍以上の時間がかかっており、移動距離に対する所要時間の長さが課題である。	大学の専門的な知識を活用し、「交通政策の提案に向けた研究」を行っており、JRの特急（快速）の乗り入れやLRTの導入など、交通アクセス時間の短縮が期待される。	市民個人	平成31年4月3日	令和4年3月31日	
004	糸島ネギの機能性について	糸島市におけるネギの作付面積は福岡県内で2番目に広く、ネギ農家数もとても多い。ネギの摂取による身体への機能性については研究が必要で、糸島産ネギは一般的なネギと比べて品種も味も違うため、栄養素も違うことが考えられる。更に、ネギ坊主は、食用としては利用されず、廃棄されている現状でほとんど研究がされていない。	大学の専門的な知識を活用し、ネギ坊主やネギの機能性分析により、加工食品の付加価値の向上や薬の原料、食用以外の活用方法、堆肥づくりの原料など、幅広く活用が期待できる。 ※ネギ坊主とは、春先（3月～6月頃）に咲くネギの花で種子のこと。	市民個人	平成31年4月3日	令和4年3月31日	
005	IBD、IBS患者に対しての包括的なフォローについて	難病指定されているクローン病患者にとっては、外出時のトイレ事情は深刻な状態。急な腹痛で、付近のトイレ探しや借りることは支障が多く、特に少し離れた山手や海手ではさらに困難な状況。遠出や観光を避ける一因になっている。公共の施設でトイレがあっても紙がない、においが強い、和式しかない、そもそも場所がわからない、ケア用品の種類が少ない等。	老若男女が購入や利用しやすいような種類豊富なケア用品（便もれのパッドなど）の開発や、使いやすい公共トイレ（オストメイト対応トイレ）、その他のトイレを示したマップ・アプリ開発など。	市民個人	平成31年4月3日	令和4年3月31日	
006	児童・生徒の自尊感情の向上について	糸島市内小・中学生は、学力面（中学校3年生の英語を除く）は全国平均を上回っている反面、「自尊感情が低い」「課題解決に向け、自分で考え、自分から取り組む姿勢を選んだ児童生徒の割合が低い」との結果が出ている。糸島市内小・中学生の未来及び学校教育の現場において、「自尊感情」をいかに上げていくかが課題である。	教育学・社会学・心理学の面から学校教育の現状等を分析し、フィンランドでの取組を糸島モデルとして構築し、ワークショップ形式による研修、モデル校での実践、結果分析・改善、市内の教育現場へ普及を行なうことで、糸島市内小・中学生の自尊感情向上が期待される。 さらには、主体的に目標設定ができ、達成に向け行動できる人材が育ち、得意分野を活かせる社会人として活躍することで、糸島市の持続ある開発目標の達成に寄与することが期待される。	市民個人	令和2年4月1日	令和5年3月31日	
007	JR 筑肥線 運休時のバス及びタクシーによる効率的な代替輸送の可能性	悪天候によるJR運休により、通勤時間の大幅な遅れや帰宅時間の見通しが立たないことがあり、日常生活に影響を与えている。 JR運休時には、姪浜駅で電車を降りることになるが、姪浜駅から唐津方面へ行くバスはないため、タクシー利用を試みる人が多く、タクシーを待つ時間が長くなり、帰宅時間が読めない。（特に単身者や世帯全員が糸島市内にいない場合は、自家用車で迎えるという手段はない）	近年の糸島市内のJR沿線の人口増加の現状及び糸島市内から福岡市方面や佐賀方面へ通勤通学で移動する人口を国勢調査等の統計を用いて明らかにし、研究を行うことで代替輸送を実行する場合の意義と効果を証明。 九州大学は福岡市及び糸島市の両市にまたがることから、自治体の垣根を超えた視点で住民サービスを提案してほしい。	市民個人	令和2年4月1日	令和5年3月31日	

No.	研究してほしいテーマ	現状と課題	大学が行う研究から期待される効果等	要望・提案元	掲載日時	掲載期限	備考
008	九州大学関係者の交通課題解消	九州大学伊都キャンパス移転完了により、毎日大勢の学生や教職員が通っている。糸島市内から九州大学伊都キャンパスに通う場合、場所によっては1時間半に一本程度のバスに頼らざるを得ず、糸島に住むことに抵抗を示す学生が多い。 それらの課題を、代替手段の提案などを検討・解消し、糸島に住む九大学生及び九大関係者を増やし、活気のあるまちにしてほしい。	交通課題の解決に資する研究者が要れば、実際に通う当事者として、考えていただけたらと思っている。	市民個人	令和2年4月1日	令和5年3月31日	
009	市民がもつ夢やアイデアの活用策	市民が持つ夢やアイデア（知恵）は貴重な資源であり、うまく引き出す手法を開発してほしい。住民が集い、意見交換を通し、止揚されたアイデア等を形にするような場と仕組みを検討してほしい。	市民の夢やアイデアを活用した社会開発の手法は新しい研究分野でと考えるので、大学の研究者に取り組んでほしい。研究によって、政策科学的な専門知見が啓発されるほか、研究過程において参加する市民には知的刺激と高揚感が生まれ、本市にとって有益な開発につながるヒントを生産する可能性がある。	市民個人	令和3年4月1日	令和6年3月31日	
010	SDGs推進都市 糸島 プラスチックに関する⑫つくる責任 つかう責任	海や川にはプラスチックごみが散乱している。クリーン活動等も行われているが、「プラスチックごみを出さない生活」をすることの方が重要と感じる。生活の中にあふれているプラスチックに対して「ゴミ」とするのではなく、「資源」という意識を持つべきで、製造する会社・消費者共に行動できる仕組みづくりを研究で構築し、SDGsを推進する都市として世の中をリードしてほしい。	市民の意識を高めるため、行政任せでなく、民間の力で解決できる方向へ導いてほしい。	市民個人	令和3年4月1日	令和6年3月31日	
011	SDGs推進都市 糸島 学校給食で ①貧困をなくそう ②飢餓をゼロに ③すべての人に健康と福祉を ④質の高い教育をみんなに	子どもの貧困が社会問題となっている。子ども食堂等を開設している団体もある。学校給食を活用し、子どもの栄養状態向上を目指すべき。学校給食の昼食に加え、定期的に朝食の給食を実施して、子どもの健康状態を守るようにしてほしい。子どもの栄養状態のデータ化と教育の質への影響の有無について調査してほしい。	大学の専門的知識を用いて研究し、より具体的な調査を行ってほしい。	市民個人	令和3年4月1日	令和6年3月31日	
012	九州大学周辺の新しい交通ツールの調査・研究について（課題No8と類似）	九州大学の伊都キャンパス周辺、特に「伊都の湯どころ」は自動車交通の膨大な発生集中を惹起しているが、ホテルの開業はこの傾向に拍車をかけると想定される。マイカーだけに頼る交通体系でよいが、この際、志摩半島全体をにらんだマストランシット（鉄道・地下鉄）の検討が必要ではないかと考えている。	大学には市にない知見があり、それが活かせること（高齢化社会における交通体系の在り方、脱炭素社会等を見据えた交通体系は、市井の知識だけでは不足し、専門的な研究開発が望まれる） 九州大学は福岡市及び糸島市の両市にまたがることから、自治体の垣根を超えた視点で住民サービスを提案してほしい。	市民個人	令和3年4月1日	令和6年3月31日	
013	浸水想定区域などの住宅地開発に関する細かなルールについて	移住で注目を浴びているが、新聞等には「浸水想定区域居住者が増加しており、政府内には国土強靱化だけではなく土地利用の規制や誘導に踏み込むべき」と掲載があった。 都市計画法に基づく市街化区域、調整区域などの線引きはあるものの、それだけでは応えきれない現状があると考えている。研究を通じて、地区計画等、よりきめ細かな対応を可能とする市独自のガイドライン作成等が必要で	未来あり得る災害を想定した治水、防災計画が必要。一方でこの方向性を踏まえながら、ゼロメートル地帯を広く抱える志摩地域をはじめとしたエリアの治水、防災の在り方には、大学の知見を借りることが適当と考えられる。	市民個人	令和3年4月1日	令和6年3月31日	
014	糸島市の学校給食を有機栽培の食材に	市の学校給食は地産地消が進んでいるようだが、糸島市でも同様に環境や生態系を守る無農薬や有機栽培推進をしてほしい。 子どもたちの、市民の健康、自然環境や生態系の保全につながる農業のあり方をより深く考えたまちづくりが早急に考えられるべき課題と捉え、有機農業の実現と有機食材の学校給食実現できれば、市での可能性を調査してほしい。	大学の専門的知識を用いて研究し、より具体的な調査を行ってほしい。	市民個人	令和3年4月1日	令和6年3月31日	

No.	研究してほしいテーマ	現状と課題	大学が行う研究から期待される効果等	要望・提案元	掲載日時	掲載期限	備考
015	糸島市の農業課題とその対策について	市内農業従事者の平均年齢が高齢であることで、今後より休耕農地の増加や離農が増え、糸島の農業生産力の低下が起ころうる状況である。今後の農業継続するために、作業負担の軽減策やITやロボットを使った農業経営のモデルの研究、農業人口を増やすための現状の糸島市の農業の問題点と対策などを研究してほしい システムや機器を使うならばどこに何を頼めばいいのか、また導入費用がいくらかかるのか、導入したことによりどのくらいのメリット、費用削減があるなど良くわからない状態なので、わかりやすくまとめた資料が欲しい。	農作業への軽減策の提案。農業の効率化や収量増加、農業従事者の増加が見込まれるのではと考える。また、提携研究でモデル農家ができれば、技術指導できる人材が増えるのではと考える。（A I 農業への壁を低くする） 大学との研究でスマート農業の入り口となる提示があれば、「テレビだけでの内容」がより身近に導入を検討できる距離となるような気がする。	市民個人	令和3年4月1日	令和6年3月31日	
016	糸島市の地域エネルギー作りについて	脱炭素に向けて世界中が動いている中で、日本中で大企業による巨大な風力発電や洋上風力発電の建設がラッシュの状態となっている。地元に戻元されない電力のために、自然環境が失われ、陸上風力は近隣住民への健康被害の例も多くある現状。 風力発電を研究している方が九州大学にはいると聞いたため、エネルギーを地域で考える。自然環境への負荷がより少ないエネルギー政策を、研究者と行政と、さらに糸島で発電所をもつ民間企業やJA、そして市民とが連携し糸島市全体で考える仕組みができないか。	糸島市には小中水力の発電所がある。グリーンコープでは地域と連携した太陽光発電所を運営しており、自然エネルギーを研究、運営される方と行政、農協、市民などが研究連携し実現していくことで、脱炭素の現実と糸島市としての存在を高めることにつながると思います。大企業の巨大な発電所が入り込む隙のないエネルギー政策を運営できれば。	市民個人	令和3年4月1日	令和6年3月31日	